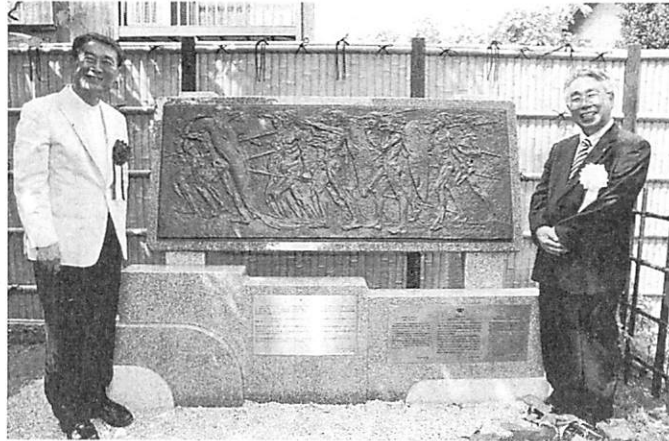


筑後

〒830-0018
 久留米支局 久留米市通町8-6
 太陽生命ビル2階
 電話0942・34・2968 FAX38・0080
 kurume@mainichi.co.jp

【通信部】 毎日新聞の
 マイクロコピーは
 大牟田 53・2015 093・521・0668

青木繁旧居に設置された海の幸のブロンズレリーフ。
 左が河さん、右は荒木会長



「海の幸」レリーフ

久留米・青木繁旧居に設置

在日韓国人 両国の友好願い寄贈

久留米市荘島町の青木繁旧居に29日、青木の代表作「海の幸」(1904年)をモチーフにしたブロンズレリーフが設置された。在日韓国人の実業家で、日韓文化交流を進めるソウルの秀林文化財団理事長を務める河正雄さん(76)＝埼玉県川口市＝が、美術作品を通して日韓友好を願って寄贈した。

レリーフは、オリジナルの海の幸と同じ縦70・2センチ、横108.2センチ。

青木が海の幸を描いた千葉県館山市に住む彫刻家、船田正広さんが原型となる塑像を制作した。日韓国交正常化50周年だった昨年、河さんが船田さんに依頼してレリーフを計5枚作り、3枚を韓国の美術館、2枚を館山の青木繁「海の幸」記念館(小谷家住宅)と、久留米の青木繁旧居に寄贈した。

29日はレリーフの除幕式があり、河さんや久留米市の関係者ら約

50人が出席。市所有の旧居を指定管理する保存会の荒木康博会長(66)は「このレリーフ

が館山、韓国の人たちの懸け橋になることを願っています」と述べた。70年代に海の幸を初めて見て感動したという河さんも「美術品は人類の宝。レリーフを通して、今まで以上に日韓両国の友好を重ねたい」と語った。

【中村清雅】